

医師不足の地域 医科大生が体感

沖島などで研修

医者不足に悩む地域の実情を、医者のタマゴが地域に入って見聞する……。滋賀医科大学の卒業生の医師や住民らが「里親」になって、学生を地域に迎え入れる研修が3日、琵琶湖に浮かぶ近江八幡市の沖島や市内の病院であった。

午前11時ごろ、医科大の学生34人が沖島に渡り、沖島診療所を訪れた。島に常駐の医師はおらず、週1回来てもらっていることや、急病人は船で対岸の病院へ搬送しなければならない島の実情を聞いた。



午後からは市立総合医療

た。医学科1年の舟山玲奈さん(19)は「県内で働きたいと思っているので、沖島の実情を知って勉強になった」と話した。研修は4日も行う。

沖島の生活や歴史について学ぶ滋賀医科大の学生＝近江八幡市沖島町